

新刊書紹介

日本帰化植物写真図鑑 第2巻

編・著：

植村修二・勝山輝男・

清水矩宏・水田光雄・

森田弘彦・廣田伸七・

池原直樹

発行：

全国農村教育協会



2001年7月、「日本帰化植物写真図鑑」が刊行されてから早くも9年が経過した。本書には帰化植物600余種が掲載されているが、この本の出版後も帰化植物をめぐる問題はますます燃えさかり、関係各位のご尽力にもかかわらず沈静化の兆しはなく、2009年現在、帰化植物の数は1,300種に達するともいわれている。

新しい帰化植物を発見・確認するのは容易なことではなく、研究者の「目」だけでは、新たな帰化種の増加に追いつくにはどうしても限界がある。より多くの「目」があれば、それだけ情報量が増え、発見が容易になるに違いない。前書から第2巻の刊行にいたる経緯について、「まえがき」で次のように述べられている。

「日本帰化植物写真図鑑(第1巻)」は、帰化植物に関する情報交換を行う二つの全国的な組織を生みだしたことで、これまでどの植物図鑑にも果たせなかった役割を発揮した。そのひとつは、出版元である全国農村教育協会が組織した「全農教日本帰化植物友の会」で、約1,800人の登録会員を擁して会誌である「通信」による情報交換を行っている。他のひとつは2002年1月に「友の会」とは別に発足した「帰化植物メーリングリスト」で、植物関係の専門家から愛好家まで多士済々の方々が管理者の元に電子メール

を使った全国的なネットワークを形成してきた。現在までに4,600を超える帰化植物関連の情報をリアルタイムで交換し、データベースとして蓄積してきた。すなわち、読者・出版社および著者が、二つの組織体を通じて「日本帰化植物写真図鑑」の内容を総がかりで補い、発展させてきたわけである。

前書から今回の第2巻刊行までの9年という時間は長いようで短く、上記まえがきに述べられている画期的な情報収集戦略があつて初めて新たな500種を確実性の高い内容で出版することができた、といっても過言ではあるまい。

第2巻に収録された500種は、前書発行以後に新たに報告された種を中心に、前書では掲載できなかった種、加えて新たに「沖縄編」が新設され、帰化植物の宝庫ともいわれる沖縄に特有の80種によって構成されている。

文献については、前書に記載されたもの以外の新しいものも加わりより充実した。これにより、前書ではおのおのの種の記載のあとにまとめられていた文献が、スペースの関係から末尾にまとめて掲載されている。また前書にも掲載され、同定に役立つと好評だったタネの写真は、第2巻でも約200種が掲載されている。

前書収録種で、新たな知見が報告されたものは、前書との関係を明らかにしつつ新知見が記載されている。索引についても前書掲載種が並列して掲載され、帰化植物の全体像がよくわかるように配慮されている。これで前書と合わせ約1,100種の帰化植物が掲載され、身近な帰化植物のほとんどがカバーされたことになる。

定価5,250円(税込)、発売：全国農村教育協会
(TEL03-3839-9160, FAX03-3833-1665,
メール hon@zennokyo.co.jp)。